

東北地方 1か月予報

(6月5日から7月4日までの天候見通し)

平成16年6月4日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

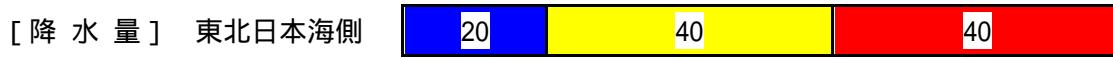
向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い、降水量は東北日本海側で平年並が多い、東北太平洋側で平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並、3~4週目は平年並か高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 6月 5日(土) ~ 7月 4日(日)

1週目 : 6月 5日(土) ~ 6月 11日(金)

2週目 : 6月 12日(土) ~ 6月 18日(金)

3~4週目 : 6月 19日(土) ~ 7月 2日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は6月11日

3か月予報：6月24日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	17.7	174.2	144.5	16.6	17.3	18.2
新庄	19.1	147.7	146.5	18.1	18.7	19.6
若松	20.2	130.8	150.9	19.3	20.0	20.7
深浦	17.7	114.4	175.7	16.4	17.1	18.4
青森	17.4	85.8	178.3	16.3	16.9	18.0
むつ	16.0	116.1	158.3	15.0	15.6	16.5
八戸	16.6	107.0	165.4	15.6	16.2	17.0
秋田	19.3	142.6	172.3	18.0	18.8	20.0
盛岡	18.6	123.3	145.5	17.5	18.2	19.0
宮古	16.4	123.7	137.4	15.5	16.1	16.9
酒田	19.8	144.8	169.1	18.7	19.4	20.3
山形	19.9	111.3	146.9	19.1	19.6	20.3
仙台	18.7	150.0	121.7	17.8	18.3	19.1
石巻	18.0	120.3	139.2	17.1	17.7	18.5
福島	20.3	128.5	123.8	19.6	20.0	20.5
白河	18.8	178.6	115.3	18.0	18.5	19.1
小名浜	18.7	156.4	131.2	17.7	18.3	19.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.4	83~114	94~106
東北日本海側	-0.5~+0.2	76~106	94~106
東北太平洋側	-0.6~+0.5	85~107	91~109

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.6	-0.6~+0.5	-0.4~+0.3
東北日本海側	-0.6~+0.4	-0.6~+0.3	-0.5~+0.4
東北太平洋側	-0.7~+0.7	-0.6~+0.6	-0.5~+0.3

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年6月4日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(6月5日~7月4日):

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目(6月5日~6月11日):

明日(5日)は高気圧に覆われて晴れますが、その後は気圧の谷や前線の影響を受け、曇りや雨となるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(6月12日~6月18日):

前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(6月19日~7月2日):

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

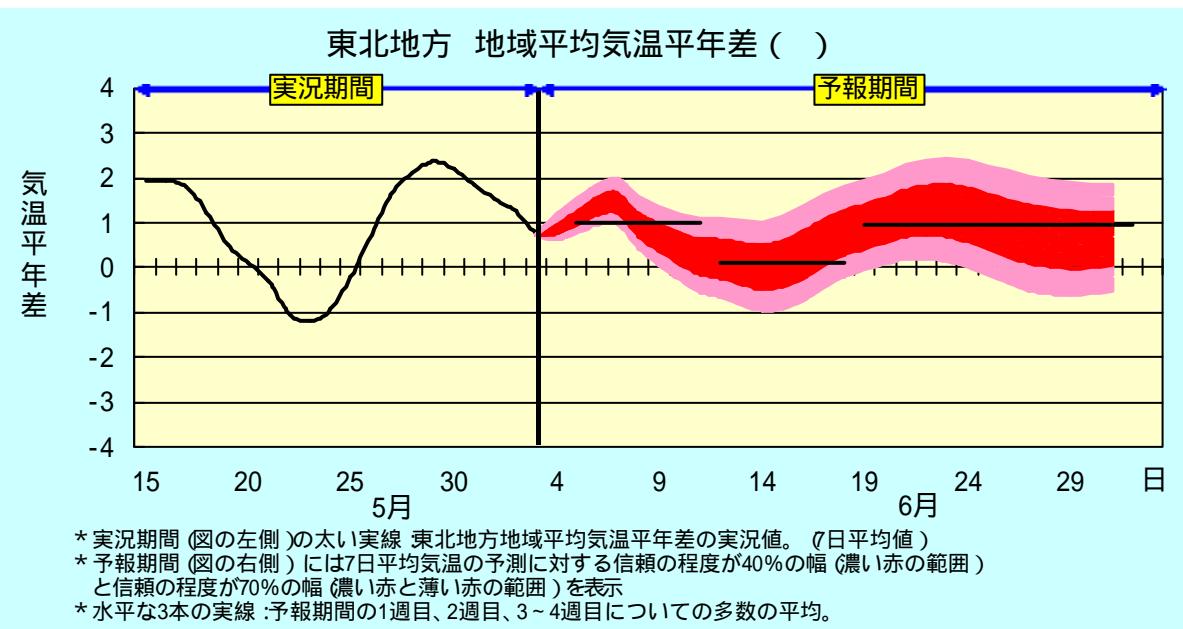
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.7日	3.6日	3.6日	5.5日
東北太平洋側	10.8日	3.3日	3.1日	4.4日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「高い」、2週目を「平年並」、3~4週目を「高い」と予想している。予報は、その他の資料から3~4週目を「平年並か高い」に変更する。

なお、数値予報の信頼度は大きい。

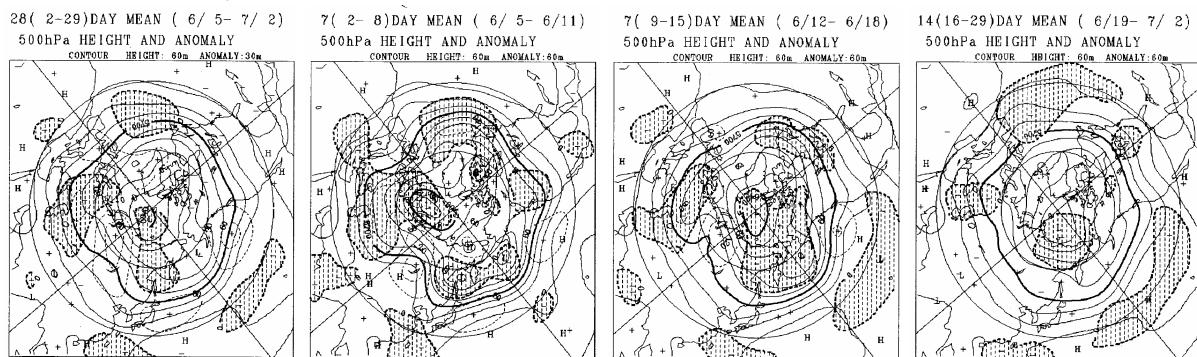


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、朝鮮半島付近に気圧の谷があり、西谷傾向で低気圧や前線の影響を受け易い。日本付近は強い正偏差だが、東シナ海付近は負偏差となる。このため、亜熱帯高気圧は北に強く張り出しが、西への張り出しは弱い。

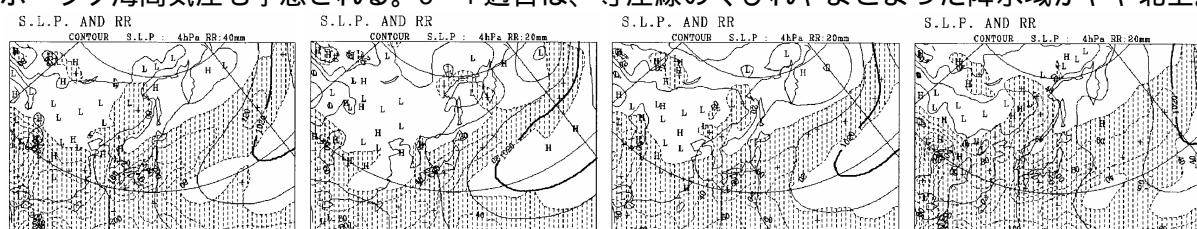
1、2週目共に月平均と同様の循環場。ただし、2週目にはオホーツク海に気圧の尾根が予想される。3~4週目は西谷弱く、東西流が卓越して天気は数日の周期で変化するが、オホーツク海付近には気圧の尾根。



地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧は平年に比べて西への張り出しは弱く、北への張り出しは強い。前線に対応する等圧線のくびれは本州南岸で、降水域もここでまとまる。

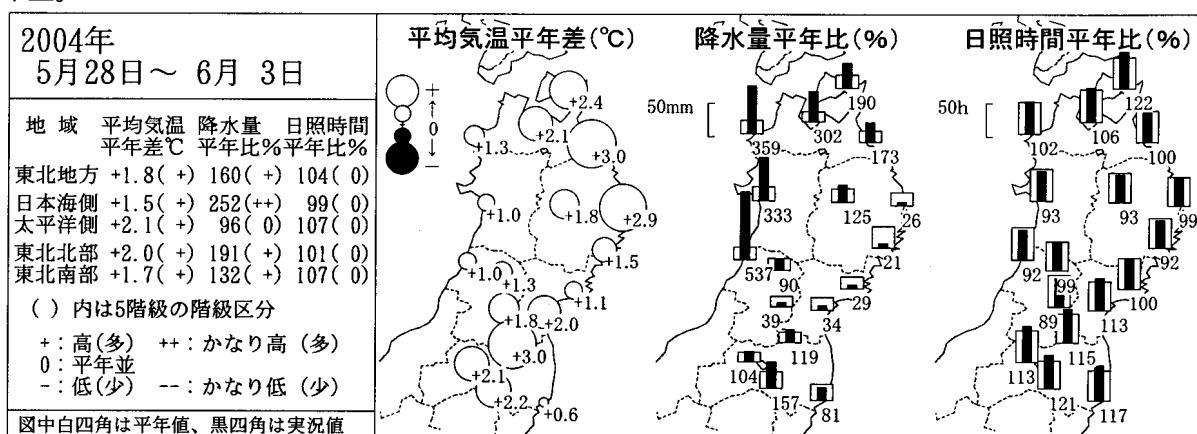
1週目は、太平洋高気圧が日本の南に強く張り出す。前線対応のまとまった降水域は日本付近。2週目は1週目に比べて本州南岸の等圧線のくびれが明瞭となり、降水域の中心も本州南岸。オホーツク海高気圧も予想される。3~4週目は、等圧線のくびれやまとまった降水域がやや北上。



4. 最近1週間(5月28日~6月3日)の天候の経過

期間の前半は、日本海を北東に進む低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くかった。後半は、高気圧に覆われて晴れの日が続いた。なお、30、31日は東北南部で真夏日となる所もあった。

平均気温は高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)